



紺碧

調布稲門会 会報
 2019.1 第49号
 年2回(1月、6月)発行
 事務局 〒182-0022
 調布市国領町 7-56-14
 Fax 042-489-6507
 E-mail toumonkai@gmail.com
 URL (HP) <http://chofu-tomon.jimdo.com/>
 編集責任者 高原浩 柵木真也

調布稲門人

早大校友数は63万人、うち調布市内に居住するのは現役学生を含めて2千人超。これは調布市の人口(23.4万人)のほぼ1%に当たります。結構大きな比率です。日本全国・世界の隅々で活躍する“稲門人”ですが、『紺碧』では今号から調布市在住の「調布稲門人」の中から、社会貢献で大いに活躍する人、異色な人、異能の持ち主、すごく面白い人等、「ちょっと気になる人」を、毎号取り上げていきます。初回は巻頭特集として、「調布市オンブズマン、舟久保賢一さん」と「地域貢献一筋、関口憲三さん」の二人を紹介します。
 (インタビュー・構成 編集部・高原浩)

調布市オンブズマン — 市政のお目付け役に弁護士の知見活かす —

舟久保賢一さん(62) 昭55法

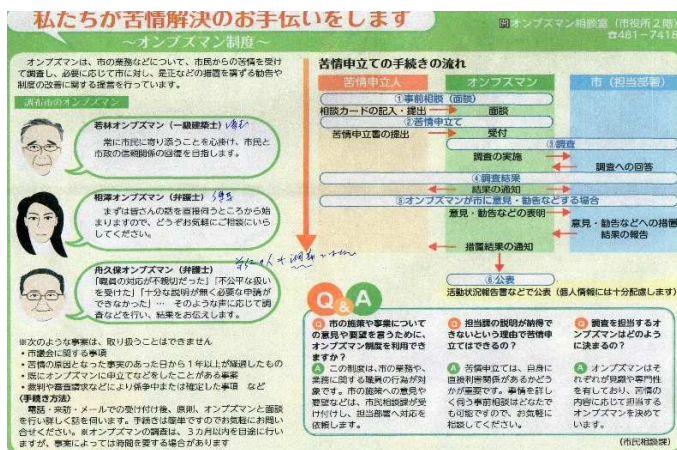


3人いる「調布市オンブズマン」の一人で現役弁護士。調布市在住は舟久保さんだけだ。

2017年4月、調布市長の委嘱を受け就任した。任期は3年、3人が交代で毎週水曜日の午後、市庁舎2階の「オンブズマン相談室」に詰める。市民が市政に関しオンブズマンへの相談を希望する場合には、オンブズマン事務局を通じてオンブズマンへの相談につながる。その際には、事前相談カードに必要事項を記入して提出してもらおう。ありとあらゆるものが相談事項となり得、今さらながら市の業務は社会生活そのものだとは痛感しているという。まずは相談者の話を丁寧に聴くことを心がけ、担当部署から事情を聴き、問題の解決を探るが、これまでの法律家

としての経験が役立っているという。舟久保さんはオンブズマンの職務を通じ「わが街調布のために少しでもお役に立てば」と語る。

写真下=似顔絵入りオンブズマン紹介記事(調布市報2018・7/5号)



見かけはおっとりしているが、真面目で的確・精緻な仕事ぶりは万人の認めるところ。本来業務(弁護士

業)でも会社、団体、個人など多くの顧問先を抱え信頼は絶大。しかし経歴は少々異色だ。卒業間際の4学年時に、親友の司法試験挑戦に刺激され、一念発起して一緒に受験。2年留年のうえ、何度かの挑戦で晴れて合格したが、30歳になっていた。そして弁護士登録、専門は民事。丸ビル内の法律事務所で11年の修行、その後、淡路町で独立、2011年からは現在地の千代田区神田錦町に事務所を構えた。奥さんが事務

を担当、夫唱婦隨の2人で事務所を切り盛りしている。山梨県富士吉田市出身、中学、高校(県立吉田高)でサッカー部所属、今は府中のフットサルチームで汗を流す。最近では調布稲門会の仲間と、調布市西部公民館で月1回の「クッキングパパ」の料理教室を楽しむ。もう3年になり家庭料理の腕前もかなりのものだとか。

民生委員13年、青少年健全育成活動約30年 —地域の世話役、フル回転—

関口憲三さん(72) 昭44商



「36歳から始めた子供会の世話役」、「青少年健全育成活動のプロ」、「ソフトボール

ソフトボールチームのコーチを合計20年務め、児童や周囲からは「コーチ、コーチ」と親しまれている。最近では調布ソフトボール連盟の大会審判も長く務めて、地元ソフトボール界では知る人ぞ知る存在だ。

のコーチ」「民生(児童)委員」いろんな顔を持つ調布市小島町の名物男である。地域社会への貢献活動一筋に35年以上、まさに「一隅を照らす、これ則ち国の宝なり」を地でいく、地道だが精力的な活動ぶりだ。小島町3丁目の一部約750世帯を担当する民生委員として12月に14年目を迎えた。子供、高齢者、障がい者のお世話をするが、全国的に幼児の虐待問題が深刻化しているものの、調布では高齢者案件が中心という。「世話好きでないと務まらない。私は人の世話をし過ぎるくらい性格、こんな性格をくれた親に感謝しています」。お世話した地域の高齢者からは「いぶん有難がられ、やり甲斐を感じるという」。



写真上=卒後50年、ホームカミングデーに訪れた母校キャンパスで

飄々とした風貌と飾らない性格は誰からも親しまれ、信頼されている。新卒就職して長らく務めた宝石卸商を51歳の時に離職、その後ソフトボール仲間の伝手で化粧品製造卸に再就職するなど辛酸をなめた苦労人でもあり、そうした苦労や社会経験が活動に生かされて周囲の信頼を得ているようでもある。人生の深い年輪を醸し出す人物だ。

小島町で親の代からの惣糸(ねんし)業の一家に生まれた。実兄は元調布市議会議員。富士見台小、調布中、都立三鷹高を経て早稲田へ。生粋の調布っ子である。母校の富士見台小地区を活動拠点に小学生、大人

特集・同好会ナウ

いま同好会活動が熱い——活動参加へのお勧め 代表世話人 天野凡子 昭56文

卒業して〇十年、これからは住んでいる地域でも人との繋がりを持ちたいと思い立って調布稲門会に入会して〇年。総会をはじめ、新年会や観月会などの全体行事に参加して知り合もできた、校歌も歌った。でもそれだけではちょっと受動的で物足りないような、と感じている方はいらっしやませ

んか?そんな方にお勧めなのが同好会です。調布稲門会の活動目的のひとつが『会員相互の親睦を深めること』で、12ある同好会が活発に活動しています。

調布稲門会設立当初からの長い歴史のある会から近年設立の会まで、身体を動かす運動系、頭の活性化には知的対戦系、

地道な活動で社会貢献、グローバルな視野を広げる講座、歌ってリフレッシュ、女性全員集合！と大変充実しています。定期的に同好会代表者会議を行ない、幹事会と同好会相互の情報共有を図り調布稲門会内の組織としてさらに良く機能するよう心掛けるようにしました。大変密度の濃い活動をしている会がたくさんあります。もちろん会員の高齢化、固定化、

新入会者の減少など各地稲門会共通の課題もありますが、そうした課題を克服していくとともに、今後は会員の要望に合った新しく魅力的なジャンルの同好会をどしどし加えていくよう意欲的に取り組んでいきます。

会員の皆さん！もう一歩前に進んで稲門会の同好会活動を感じる存分、楽しんでみませんか？



12 同好会の現況 (会員数、代表者、連絡先)

◇囲碁 (20人、早川政夫、042-487-9610)

月例会は毎月原則第4日曜日午後(ただし例会会場の菊野台地域福祉センターが改装のため2019年4月までは休止)。他に新春囲碁大会、夏季囲碁大会。オール早稲田囲碁祭にも参加。初心者大歓迎。

◇語ろうアースカフェ (参加者多数、山田和子、042-488-0741)

留学生、学生、地元の人々と国、世代を超えた交流活動を展開中。留学生による出身国の文化、政治、経済に関する講座(1カ国4回)が主要事業で、講座終了後にその国へのオリジナルツアーも実施。現在、ブラジル講座開講中。2年前から「世界の食文化講座」も開始した。

◇カラオケ (約20人、潮田健太郎、042-481-4135)

2018年11月の同好会全体会議で、前任の中野慶子さんからリーダーを引き継ぐことになりました。新任を機に広く参加を呼び掛けています。皮切りとして12月9日に従来のメンバーと幹事の皆さんを加えてカラオケ+忘年会を挙行了しました(潮田)。

◇硬式テニス (21人、坪井貞光、042-481-6539)

毎週月、金曜日の10時~12時、調布市営コート(多摩川、深大寺)で。試合形式でテニスを楽しみ、会員・近隣の特別会員間の親睦を図っています。2017年度はコートも順調に確保でき、参加者も多く、充実した活動になりました。

◇ゴルフ (22人、平松勲、042-486-8568)

和気あいあい、楽しくプレーをしています。川崎国際ゴルフクラブで春と秋の稲門会単独コンペ、毎回10数人が参加。また三田会との親善コンペも最近になって再開し各回25人ほどが集っています。

◇女性の会 (57人、山田和子、042-488-0741)

女性会員全員のコミュニケーション・親睦の場。年2回(春、秋)散策とレストランランチを企画しています。最近では東村山の多磨全生

園とピクニックランチを実施。他に年1回リーダー自宅で茶話会、新年会、それ以外の奇数月に近隣でランチ会をしています。

◇太極拳 (約50人、中野完二、042-485-0523)

1984年に創設した歴史のある同好会で近隣の方々も参加。毎週日曜日午前10時~11時半、調布市総合体育館小体育室で。新年懇親会、暑気払いの会を開き、2019年には35周年記念大会を予定しています。

◇調布ダンス (約25人、元木勇、03-3300-4554)

平成21年4月に現行名に変更して稲門会以外にも門戸を広げました。月2回土曜日に「たづくり」のホールを練習拠点として活動、調布ダンススポーツ連盟に加入して競技会にもチャレンジしています。

◇フラダンス (18人、大谷裕子、042-485-7489)

「ふれあいの家」「たづくり」「あくろす」など土・日曜日にレッスン。2017年度は生涯学習体験発表会やアロハフェス、市民文化祭などに参加、希望者はハワイ研修旅行にも行って貴重な体験をしています。

◇ボランティア・ネットワーク (約30人、坊野美代子、090-2174-0187)

障がいのある子供たちの支援(主に土曜日、年4~5回)のボランティア活動。活動先は特別支援学校や調布の風(放課後デイ)です。発達障害の理解講演会も年1回企画。メール通信(Bor・n通信)を発行しています。

◇麻雀 (26人、関口憲三・濁川寿次、関口042-486-7045)

稲門会設立当初からの同好会。例会を年2回(秋、春)に実施、これまで85回開催しています。ただ現在は、常用雀荘閉店のため新たな会場を探し中。概ね4卓くらいで半荘4回の対局で楽しんでいます。

◇ワングル (32人、石倉毅・天野凡子、天野042-480-2503)

年2回春、秋に東京など首都圏近郊を散策、自然・文化・歴史に親しんでいます。近年の活動先は秩父羊山公園芝桜の丘、奥多摩湖ダムと溪流、三崎港~城ヶ島公園、小田原城址公園、江の島・片瀬海岸など。

2018 福祉バザー**寄付金額 20 万円超、会員の熱意・協力実る**

編集部・高原浩



年末恒例の調布市社会福祉協議会(社協)主催の福祉まつり(バザー)が2018年12月1日(土)、2日(日)の両日、市役所前広場で開かれましたが、バザーでの調布稲門会の存在が年ごとに重みを増しているようです。事後に社協に寄付した金額は目標の「20万円突破」を達成、20万6,202円となりました。バザー参加約60団体中の第2位とすることで、社協から深く感謝されました。今回バザーを陣頭指揮した坊野美代子幹事(稲門会会計担当)は「会員・準会員の皆さん一人一人のご協力がたくさん重なり合って一つにまとまり、今年のパザーを終えることができました。大変有難うございました」と語っています。



調布稲門会は2日(日)のバザーに参加。朝からあいにくの肌寒い曇天でしたが、参加者は元気いっぱい。前日の爽爽荘(特養老人ホーム:毎年、作業用にホールや車両をお借りしています)での商品値付け作業、当日の早朝からの販売に各30人の幹事・会員が格闘しました。

今回割り当てられた場所は「たづくり」南側入口の「カフェ・パラス」横という好立地条件。石田欽也、舟久保賢一、嶋田浩一幹事の「おあいですよ。いいもの沢山あります」との大声の呼び込みに誘われ、大勢のお客さんが。販売終了時刻の午後2時半までぎりぎり精力的に売り、そして素早く撤収作業へ。午後4時、参加者全員で一本締めをして解散しました。

キテナに来てね! 2018 年度上期活動報告**府中プラネタリウム見学/カニ山芋煮会**

キテナ担当幹事 松野宏 昭43教育

9月22日(土)、府中のプラネタリウムとサントリー一武蔵野工場を見学しました。参加者21人。郷土の森博物館にあるプラネタリウム(写真下)は昨年5月に新装なり、投映機材やスクリーンは規模、システムともに東日本最大級とのこと。府中の街の灯りが全部消えたと想定して映し出された風景は、想像を絶する無数の星と星座。そしてその美しいこと、心底圧倒されました。その後、同博物館で府中と多摩の歴史



を学び、隣接するサントリー武蔵野工場で出来たてのビールを試飲して一日を終えました。

11月24日(土)は、恒例のカニ山芋煮会を開催。今回で4回目。食材調達、調理、そして会場設営は手慣れたもので、おいしい芋煮と定番のカレーうどんができました。今年最大のサプライズは、野川クリーン作戦に参加した調布三田会の人たち7人が合流したことで、稲門会参加者と合わせて28人というかつてない大所帯の芋煮会になったことです。三田会の人たちからは「よくこういう手間のかかることができるものだ」と感心の声が聞かれ、調布稲門会としても精一杯のおもてなしでお応えしました。



一本取られたと思ったのは、調布三田会が長い竹竿につけた会旗を2本持ち込んだことで、それに対し当方は小旗1つ。調布三田会の旗の目立つこと(写真上)。「来年は稲門会も大きな旗を持ってこなくちゃ」と悔しさしきり。自己紹介、記念写真撮影そして校歌の交換。そんな楽しい一日となりました。「また来年もやりましょう」と声を掛け合ったのはいうまでもありません。

会長新年ご挨拶

新時代、新たな気持ちで地域社会に貢献を

会長 岡田文男 昭49理工



新年明けましておめでとうございます。寒い日が続きますが、ご家族そろって穏やかな新春をお過ごしのこととお慶び申し上げます。

昨年は、東京三多摩支部の主幹幹事を仰せつかり、例年の調布稲門会の行事に加え、支部大会等の東京三多摩支部のイベントを開催しました。皆様のご支援、ご協力を頂きつつがなく終了しました。感謝申し上げます。

さて、今年は、新天皇が即位し『平成』から新元号に切替わろうとしています。また、9月20日、味スタでラグビーW杯が開幕します。開会式、開幕戦を含め、8試合が開催されます。大勢のお客さんが調布の街を訪れます。新たな気持ちで何らかの形で地域社会に貢献できればと考えています。

また、昨年11月に田中愛治新総長が就任され、『Waseda Vision 150』を継承し、『世界で輝くWASEDA』の実現に向けて次のステージへと力強い就任のご挨拶を伺いました。

調布稲門会の目的の3本柱である「会員の親睦」、「母校への支援」、「地域社会への貢献」に関し、なお一層のご支援ご指導のほどお願い致しまして新年のご挨拶とさせていただきます。

東京三多摩支部大会

26稲門会200人が大集合、盛会の三多摩支部大会

(報告 高原浩/芦澤友雄)

調布、町田両稲門会が主幹幹事となった「2018早稲田大学校友会東京三多摩支部大会」が10月27日午後、大隈記念講堂、大隈ガーデンハウスで盛大に開

催されました。傘下の26稲門会の代表約200人が一堂に会し、稲門会間の交流・親睦、地域社会への貢献、母校の発展への寄与を一段と推進していくことを確認しました。

今回、大会式典に先立ち一般公開の映画「あん」の



上映と、現役学生の説明する学内見学ツアーを企画。映画は350人の方に

楽しんで頂きました。また学内見学ツアーには調布はじめ各稲門会代表から約20人が参加、発展する母校の最新施設群を興味津々見て回りました(写真上)。

式典(写真下)は鎌田薫総長、萬代晃校友会代表幹事



らを来賓にお迎えし、岡田文男東京三多摩支部長(調布稲門会会長)が「会員の

高齢化への対応、若手会員の獲得に鋭意取り組んでいきたい」などと開会の辞を述べ、鎌田総長ら来賓からのご挨拶を頂戴したあと、芦澤友雄支部事務局長(調布稲門会幹事長)が活動報告をし、約30分の式典を無事、終了しました。

大会式典終了後、第3部として大隈ガーデンハウスで懇親会を開催しました。志村宏副支部長(町田稲門会会長)の開会挨拶に続き、大島正敬校友会常任理事、佐々木豊総長室校友課長の来賓挨拶、高田宜美東京都23区支部長の乾杯の音頭で懇親会がスタート。200人もの参加者が集まると、身動きが取れないような通勤電車並みの混雑でしたが、皆さん要領よくお酒を注いで歩いたり、バイキングの食事をとったりして和気あいあいと進行しました。宴もたけなわになったころ、調布・嶋田浩一幹事の十八番である『早稲田大学第二校歌 人生劇場』の熱唱が始まり、最高潮となりました。その後、応援部によるアクション、そして締めは調布稲門会定番で応援部OBの秋沢淳雄幹事リードによる校歌斉唱でお開きに。

会員のエッセー

真岡などサハリン（旧樺太）を訪ねる一現地で時代・運命に翻弄された人々を想う

山田和子 昭49文

2018年8月、サハリンツアーに参加した（参加者12人、うち2人は終戦後引揚者）。訪問先はユジノサハリンスク（旧豊原）、ホルムスク（旧真岡）、コルサコフ（旧大泊）。サハリンは、がんで他界した親友ニーナが14歳まで過ごした故郷、かねてより一度訪ねたいと思っていた。彼女はソ連の教育を受けて育った2世代。1966年に両親と共に日本に戻る際、日記と全ての写真を目の前で焼却させられたショックが忘れられないと言っていた。現在サハリンは経済的にも潤っている。インフラの整備が進み、新しい集合住宅も続々建設中。その一方で日本統治時代の姿など歴史的な面影は風化している。

先住民族のうち樺太アイヌ人はサハリンの南側に居住し、狩猟や、漁業を営み平和に暮らしていたが、帝政ロシア、続いて日本が入り込んで翻弄されていく。彼らは北海道に移住させられたり、再び故郷樺太へ戻ったりし、1945年ソ連領になると、引揚者としてまた日本に渡って来た。樺太と北海道アイヌの文化は違う。風前の灯とも言えるべき其々の文化が継承されていくことを願うばかりだ。またサハリンに移住してきた多くの朝鮮系の人たちや彼らと結婚した日本人妻たちも、戦争によって翻弄され、運命をもてあそばされ、それは今もまだまだ尾を引いている。

樺太は、1945年のソ連軍の攻撃までは、平和そのものだったそう。樺太庁はニシン粕という良質の肥料を本土の米と

トピックス

◇秋の多摩川クリーン作戦、参加者多数 お茶会も（関口憲三）

2018年11月11日午前8時から、調布市主催による恒例の多摩川クリーン作戦に参加しました。好天の下、調布稲門会から岡田会長はじめ16人、調布三田会からも8人と、多数の参加者となりました。今回も多くの子供少年達が参加したためゴミを捜すのに骨を折る状況でした。

終了後、二ヶ領上河原堰の多摩川水門を散策。水門下50mは若鮎の禁漁区という新発見もありました。その後、今春同様、福祉作業所運営の「カフェ大好き」でお茶会を催し、参加者も合計19人と、大きな盛り上がりを見せました。

参加者（敬称略）青木一夫、明石純一、芦澤友雄、天野凡子、石田欽也、岡田文男、関口憲三、相馬友子、坪井貞光、春山正樹、坊野



交換し、米を潤沢に備蓄していた。戦後の食糧難の時代、引揚者は配られた米で大いに助かったという。

真岡で小学校の奉安殿跡などの日本統治時代の遺構を見た。奉安殿（写真左）には御真影と教育勅語が保管され、「戦陣訓」（生きて虜囚の辱めを受けず）も子供たちに刷り込まれていたと思う。1945年夏、ソ連軍の攻撃が迫り、真岡郵便局

の電話交換手12人のうち9人が青酸カリで自決した。数名ずつが順番に服毒したらしい。服毒寸前の3人は別室にいた局員に助け出され、その後も引き続き電話交換手として働いた。犠牲者の一人は「皆さん、これが最後です。さようなら、さようなら。」と電話回線を通じて仲間に最後の別れの言葉を伝えたという。ただ郵便局に向かっていただけ局長は曲折あった末、結局白旗を揚げ投降。「えっ！」と私は思う。戦前の教育を受け、青酸カリを持たせられた人間にはその意味は明白だろう。彼女らの自決は局長だけが制止できたものでないか？知恵を絞ればどこかで彼女たちに制止の意思を通じる手段もあったはずだ。現に彼女たちは通話をしている。このような場合自決すべきと思うのなら、なぜ自分は白旗を揚げたのかと憤りを覚えた。

美代子、堀井時枝、松村啓之亮、森本祐幸、森山耕一、山田和子

◇野川クリーン作戦、今回も三田会と合流（岡田文男）



2018年11月24日（土）、国領駅の改札口に集合しました。予定の集合時刻より早く全員集合したので、野川の中島橋に出発。こ

こでミス。返信メールを見落としていた在校生の安河内健人さん（社会学2年）と堀井時枝さんを置き去りにして出発してしまっ。偶然にも堀井さんが電話をしているのに気付いた安河内さんが堀井さんに話しかけてくれたことに感謝。中島橋で調布三田会と合流し、大橋まで

野川クリーン作戦を執行。11時には終了。ゴミを探すのに苦労するほど河原はきれい、その後、芋煮会の会場であるカニ山に向かった。

同好会だより



◇2018 Bor・nの活動報告一障がいのある児童・生徒の余暇

活動支援

(坊野美代子)

京王線調布駅が地下化され、駅前に“トリエ”がオープンして1年余り。ベビーカーの買い物が倍増しました。駅ホームから商業施設まで、エレベーターなどで段差無く移動できるのが魅力と思われまます。同時に、電動車イスで一人で調布駅前広場を移動する人を驚くほど多く見かけます。バリアフリーの街になったことの証でしょうか。心のバリアフリーは最も大事ですが、物理的なバリアフリーも同じくらい大切だと強く実感します。さてBor・nの活動ですが、例年の通り都立調布特別支援学校の児童・生徒の余暇活動支援に取り組んでいます。

2018年は、写真教室6月9日（土）、ちょうふの風NHKスタジオパーク見学7月27日（金）、フラワーセラピー11月25日（日）、調布まつり12月8日（土）のボランティアに参加しました。

参加者(敬称略) 堀井時枝、嶋田浩一、涌田みちる、山田和子、川島秀子、宇野良子、山本公子、潮田健太郎、坊野美代子

2019年は、まずバレンタインコンサート2月9日（土）を皮切りに、Bor・n講演会3月16日（土）(たづくり映像

参加者(敬称略) 五十嵐眞、石井宏和、石倉毅、岩崎博重、岡田文男、仲野勝、松村啓之亮、山口泉

シアター14時～)などを予定しています。ぜひ多くの皆様のご参加をお待ちします。

◇語ろうアースカフェ主催「ブラジル講座」—2月16日最終講です！

(山田和子)

好評開催中のブラジル講座は2月16日が最終講。副題「サッカーとサンバを超えるブラジル～多文化共生の進んだ国を再発見」が示すように、第1～3回講義では、日本人のブラジルに対する固定観念を打ち破るべく、大航海時代の歴史、ブラジルポルトガル語、多様な観光地について、また発足したばかりの政治体制などタイムリーなテーマが取り上げられた。最終回は「社会や文化をブラジル人の目線から学ぼう」、ご興味のある方は是非ご参加下さい。

・午後2時～4時、たづくり8F 映像シアターにて開催

・受講料1,000円（学生無料）

・講師：ファベロ・ソウザ・タイス（早大国際コミュニケーション研究科博士課程2年）

・問合せ・申込先：山田和子

kazuko.yamada@icom.home.ne.jp

[今後の予定]ネパールの食文化講座 2019年 5/11、6/1

ブルガリア講座（全4回）2019年 10/5開講

短信・お知らせ

◇新会員紹介（敬称略、氏名、卒年・学部）

[正会員]大塚公久（昭55法）、桑原貴子（昭58社学）、

コ・ウエンディ（Wendy Hu）（平5工研電）、

山口泉（昭46商）、鹿島裕一（昭48理工）

◇平成最期の新年会、盛大に開催

平成最後の新年会を2019年1月20日（日）午後4時～6時半、調布パルコ8階のクレストンホテルで開催しました。稲門会の発展と会員の皆様のご健勝、ご活躍を祈念した盛大な祝賀の宴となりました。（その模様は6月号に掲載予定です。編集部）

平成30年度調布稲門会 年会費お支払いのお願い

会計担当 坊野美代子 明石純一

平成31年3月末で今期の会計年度は終了となりますので、年会費未納の方は至急お手配下さいますようお願い申し上げます。この紺碧第49号お届け時に郵便払込み票同封の方が未納会員です。

年会費振込先 口座名「調布稲門会」

ゆうちょ銀行 当座 00120-8-101851

みずほ銀行調布支店 普通 0997965



東京三多摩支部大会当日、写真両脇は会場の大隈講堂正面入口に掲げた告知看板。写真中は講堂外の北側回廊に立つ大隈侯大礼服像です。

<編集後記> 平成最後の会報「紺碧」となりました。年号が変わっても昭和から平成になった時ほどの感慨はありませんが、ぜひ明るく楽しく元気な時代になって欲しいものです。さて調布稲門会主幹の一大イベント、東京三多摩支部大会は成功裏に閉幕、関係者一同ホッとしているところです。小生も裏方の一員として参加、在学中に受けた定期健診以来となる大隈講堂“奥の院”への潜入を迫体験しました。新しい発見もいくつか。舞台の上袖(右側)裏には立派な調整室やAV機器、機械類を備えたスタッフの仕事場、下袖(左側)裏には重厚な木製机・椅子などの調度品が目を引く古風な控室が続き部屋で二つ。その控室のドアから石の回廊(北側の大隈庭園側)に出て暫く歩くと、壁面のニッチの中に立つ等身大の大隈重信侯大礼服ブロンズ像(上の写真中)と遭遇。この銅像の存在、知る人ぞ知るようですが、小生は“初対面”、思わず襟を正しました。話は「紺碧」に戻って、今号の巻頭は人もの特集です。名付けて「調布稲門人」。いかにも早稲田卒業生らしい市井の異色・異能人物を発掘して毎号で紹介していくつもりです。(高原浩 記)

<p>深大寺そば 創業文久年間 ご宴会・俳句会・御法事</p> <p>元祖 嶋田家</p> <p>住所 〒182-0017 東京都調布市深大寺元町5-12-10 電話 042-482-3578 FAX 042-499-6655</p>	<p>早稲田大学商議員 調布稲門会会長</p> <p>岡田文男</p> <p>自宅 〒182-0011 東京都調布市深大寺北町6-8-13 電話 090-1819-5619 メールアドレス: fumi3248@akane.waseda.jp</p>	<p>林建設株式会社 取締役社長</p> <p>林 清一</p> <p>住所 〒182-8512 東京都調布市小島町2-5-6-3 電話 042-486-1111 FAX 042-486-1120</p>
<p>旭化成建材(株)指定工務店 外壁塗装・屋根塗装</p> <p>株式会社住まいるスズキ</p> <p>代表取締役 鈴木光孝 〒182-0023 東京都調布市染地3-5-65 電話 0120-080-242</p>	<p>新技術 UV プリント 立体物などにフルカラーでダイレクト印刷 記念の贈答品やオリジナル製品をお求めの方に 名刺・ショッピングカード・ポストカード 記念誌・白書出版・アルバム等</p> <p>印刷 株式会社 内田平和堂</p> <p>03-3300-7301</p>	<p>イベント・パーティー</p> <p>(株) 正直屋グループ</p> <p>住所 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町4-7-10 電話 03-3853-1171 FAX 03-3853-1493 http://www.shojikiya.co.jp/</p>
<p>相続を争族にしないために、 公正証書遺言をお勧めします。</p> <p>行政書士堀内総合法律事務所 行政書士 堀内正之 〒182-0035 東京都調布市上石原3-12-8 電話・FAX 042-499-1300 HPは「調布 行政書士 堀内」で検索</p>	<p>本格カレー&ダイニング M's Kitchen</p> <p>エムス キッチン</p> <p>住所 〒182-0024 調布市布田4-2-7 ホテルノービス調布1階 電話 042-444-2185 調布駅1分 飯野病院西側 月曜日定休</p>	<p>宿泊・宴会・婚礼</p> <p>調布クレストンホテル</p> <p>住所 〒182-0026 調布市小島町1-38-1 調布バルコ8~10F 電話 042-489-5000 FAX 042-489-1106 http://www.crestonhotel.jp</p>
<p>早稲田大学賛助商議員 調布稲門会 顧問</p> <p>元木 勇</p> <p>自宅 〒182-0003 調布市若葉町2-22-10 電話 03-3300-4554 FAX 03-3300-8728</p>	<p>新しい食文化を創る</p> <p>株式会社山田屋本店 代表取締役社長 秋沢 淳雄 住所 〒182-0024 東京都調布市布田2-1-1 電話 042-482-4585 FAX 042-482-4572 http://www.okomekan.net/</p>	<p>早稲田大学商議員 調布稲門会 顧問</p> <p>椎原 大典</p> <p>自宅 〒182-0022 東京都調布市国領町8-2-9 ライフタウン国領1-426 電話・FAX 03-3430-4338</p>